

第9回 作業療法ジャーナル研究助成・研究経過報告

「食事遂行技能の観察項目の選定に関する調査研究」研究経過報告



塩津裕康氏

塩津裕康

(専門学校 ユマニテク医療福祉大学校, 作業療法士)

第9回作業療法ジャーナル研究助成を受け、昨年度から研究を進めております。本研究のテーマは、「食事遂行技能の観察項目の選定に関する調査研究」です。既存の食事評価法は、食事動作と嚥下が別々の評価であることや、遂行の質の評価より診断的意味合いが強い評価がほとんどです。そのため、作業療法に役立つ、食事動作と嚥下の遂行度を包括的に評価できる評価法の作成を目指しています。

その第一歩として、評価法の観察項目を選定するために、ICF やさまざまな評価法 (McGill Ingestive Skills Assessment, Assessment of Motor and Process Skills 等) や文献を参考にしたうえで、共同研究者と共に観察項目を抽出しました。大きくは、食事を口腔内に取り込むまで (Feeding Skills)、口腔内に取り込んでから (Oral Skills) の2期に分け、それぞれに Motor Skills (Feeding : 9 項目, Oral : 6 項目)

と Process Skills (Feeding : 10 項目, Oral : 9 項目) を設定しました。

抽出した観察項目は、100 名の OT にアンケート調査 (抽出した観察項目をリッカート・スケール 5 件法で調査) を依頼し、54 名 (摂食嚥下障害への介入経験 : あり 34 名, なし 20 名) の OT から回答をいただきました。結果、Feeding Motor Skills は 9 項目中 7 項目, Oral Motor Skills は 6 項目中 5 項目, Feeding Process Skills は 10 項目中 7 項目, Oral Process Skills は 9 項目中 9 項目に同意が得られました。

しかし、アンケートにおいて、「評価者が使用しやすい項目数について」、「環境との関係性について」等のご意見もいただきましたので、さらなる検討が必要です。引き続き、この研究を続け、皆様の役に立つ食事の評価法を作成したいと思います。